

# ハマフエフキの種苗生産

藤本 裕・久保弘文・仲村伸次

## 1. 目的

ハマフエフキ種苗40万尾を生産し、放流用及び養殖用種苗として配布する。

## 2. 方法

親魚は、前年度より引き続き養成していた大グループを用いた。陸揚げ後6日目から産卵を確認し、6月初旬まで順調に採卵できた。しかしながら6月4日から白点虫と思われる斃死があり、硫酸銅薬浴を行ったが同16日までに全滅したので、急速養殖業者から購入し採卵用親魚(体重4kg以上30尾)とした。

種苗生産時の餌料は、原則としてワムシ→アルテミア→配合飼料・魚卵とした。ワムシはタイ産若しくはS型でスタートし、以後S型とした。アルテミアは、前年度省力化と低コスト化を目標として省いたが、共食いによる減耗が激しく生残率の低下を招いたため、今年度は各生

産回次ともアルテミアを投与した。栄養強化はタイ産ワムシはナンクロロブシスを使用し、S型ワムシ、アルテミアは共にドコサユージェナを使用した。

## 3. 結果及び考察

6月初旬の産卵量は大グループ1日の卵で1水槽に収容するために十分な量が得られた。しかし購入した親魚からは十分な卵が得られなかったため、8回次以降は2日分の卵を収容した。

種苗生産結果を表1に示した。計12回次の生産を行い、そのうち5回分は途中廃棄し、総生産数は29.4万尾であった。

生残率は0.4~3.3%の範囲であった。減耗は前年度同様飼育後半に多かった。前年度と今年度の結果から飼育後半の餌料系列は、アルテミアの投与に加えてさらに工夫する必要があると思われる。

表1 ハマフエフキ種苗生産結果

生産回次	回	1	2	3	4	5	6	7
収容月日	月日	5/9	5/14	5/28	5/29	6/9	6/12	6/13
収容卵数	千粒	3,146	3,848	3,120	4,352	3,872	3,328	2,880
ふ化仔魚計数	月日	5/10	5/15	5/29	5/30	6/10	6/13	6/14
ふ化率	%	99.9	58.5	103.0	95.0	91.8	63.3	63.8
開始時水槽	m <sup>2</sup> ・槽	50, 1	50, 1	50, 1	50, 1	45, 1	45, 1	45, 1
仔魚収容数	千尾	3,144	2,253	3,175	4,134	3,554	2,105	1,834
開始密度	千尾/m	62.9	45.1	63.5	82.7	79.0	46.8	40.8
飼育日数	日間	生残数減のため	開鯨率不良のため	43	42	生残数減のため	生残数減のため	生残数減のため
取揚全長範囲	mm	飼育中止	飼育中止	18.3-31.8	16.0-23.5	飼育中止	飼育中止	飼育中止
取揚平均全長	mm			25.1	19.5			
取揚尾数	千尾			103.5	70.0			
生残率(ふ化から)%	%			3.3	1.7			
取揚密度	千尾/m			2.1	1.4			
飼育水温	C	25.1-28.2	25.2-28.8	25.7-28.0	26.0-29.0	24.4-26.0	23.9-24.9	23.6-24.5
生産回次	回	8	9	10	11	12	合計	
収容月日	月日	6/25-26	7/1-2	7/3-4	7/7-8	7/10-11	5/9-7/11	
収容卵数	千粒	3,776	3,168	2,560	2,912	3,360	40,322(2,560-4,352)	
ふ化仔魚計数	月日	6/26	7/3	7/5	7/9	7/12	79.7(62.5-103.0)	
ふ化率	%	-	73.6	76.8	62.5	83.3	50, 4; 45, 8	
開始時水槽	m <sup>2</sup> ・槽	45, 1	45, 1	45, 1	45, 1	45, 1	29,117(1,819-4,134)	
仔魚収容数	千尾	-	2,332	1,967	1,819	2,800	40.4-82.7	
開始密度	千尾/m	-	51.8	43.7	40.4	62.2	39-45	
飼育日数	日間	40	41	39	45	41	294.5	
取揚全長範囲	mm	18.9-36.6					0.4-3.3	
取揚平均全長	mm	26.3					0.2-2.1	
取揚尾数	千尾	42	27	8	24	20	24.6-28.3	
生残率(ふ化から)%	%	1.1	1.2	0.4	1.3	0.7	23.6-29.0	
取揚密度	千尾/m	0.9	0.6	0.2	0.5	0.4		
飼育水温	C	25.5-28.7	27.1-29.0	26.9-28.4	24.1-28.1	24.6-28.3		

\*: 現在の所属: 沖縄県水産試験場